

<研究成果の紹介>

# バンカー植物で増えたケナガカブリダニがカンザワハダニの密度を抑制する

農業研究部 茶業研究室

## 1. 成果の内容

土着天敵の保護利用技術に、天敵を増殖・温存できるバンカー植物の利用があります。茶栽培においては、キク科のチトニア (*Tithonia rotundifolia*) に代替餌としてチャを加害しないナミハダニを放飼することで、カンザワハダニの土着天敵であるケナガカブリダニを効率的に増殖できることが分かっています (平成17年度関東東海北陸農業研究成果情報)。

そこで、バンカー植物によるカンザワハダニの生物的防除技術を確立するために、チトニアで増殖したケナガカブリダニの茶園への移動状況、さらに移動したケナガカブリダニによるカンザワハダニの密度抑制効果を検討しました。

まず、バンカー植物となるチトニアは、4月

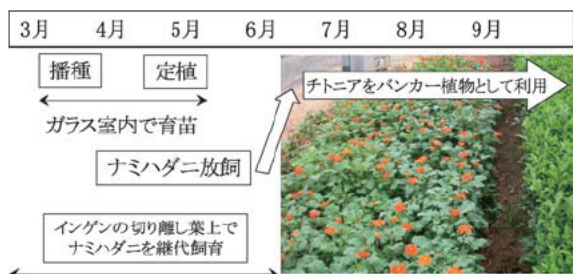


図1 チトニアの導入方法例

中旬から5月中旬にかけて、茶株雨落ち部から50cm離し、茶畝と平行に7列を株間20cmで定植します (図1)。

次に、チトニアが十分繁茂し地表面を覆う程度まで生育した時、ナミハダニを植栽面積1㎡あたりに約10,000頭放飼します。茶園のケナガカブリダニがチトニアに誘引され、ナミハダニを餌として増殖します。

チトニアにおけるケナガカブリダニの密度が最も高くなった後、ケナガカブリダニは、5~10日間隔で隣接する1畝目から、3畝目、5畝目にかけて移動し、チトニアから8.5m離れた5畝目までカンザワハダニの密度を抑制します (図2)。

## 2. 技術の適用効果と適用範囲

チトニアの生育を考慮すると、二番茶摘採期以降のカンザワハダニの発生に適用します。

## 3. 普及・利用上の問題点

バンカー植物の植栽面積をいかにして少なくするか、バンカー植物の効果範囲をいかに広げるか、これらのことが残された課題です。このバンカー植物の効率的利用法については、現在研究を進めています。

(富所 康広)

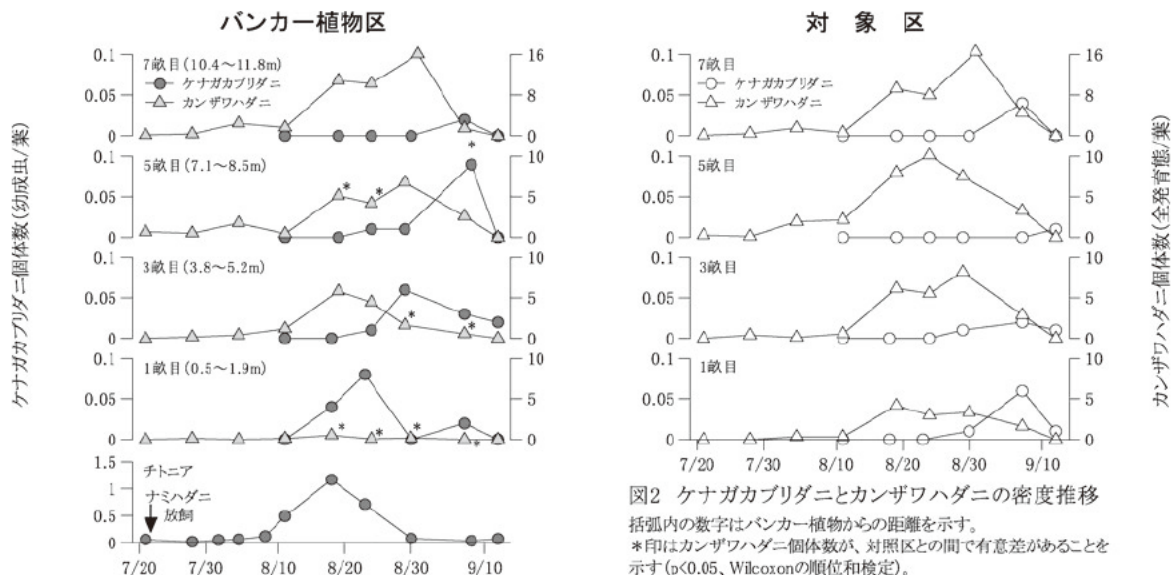


図2 ケナガカブリダニとカンザワハダニの密度推移  
括弧内の数字はバンカー植物からの距離を示す。  
\*印はカンザワハダニ個体数が、対照区との間で有意差があることを示す (p<0.05, Wilcoxonの順位和検定)。